



がん患者の前向きな生活適応へ心理支援と運動介入方略の開発

作業療法学科

小泉 浩平 助教

【研究分野】 がんリハビリテーション、行動医学

【キーワード】 身体活動量、運動療法、心理療法、がん

【U R L】 <https://www.spu.ac.jp/academics/db/tabid334.html?pdid=303koi>

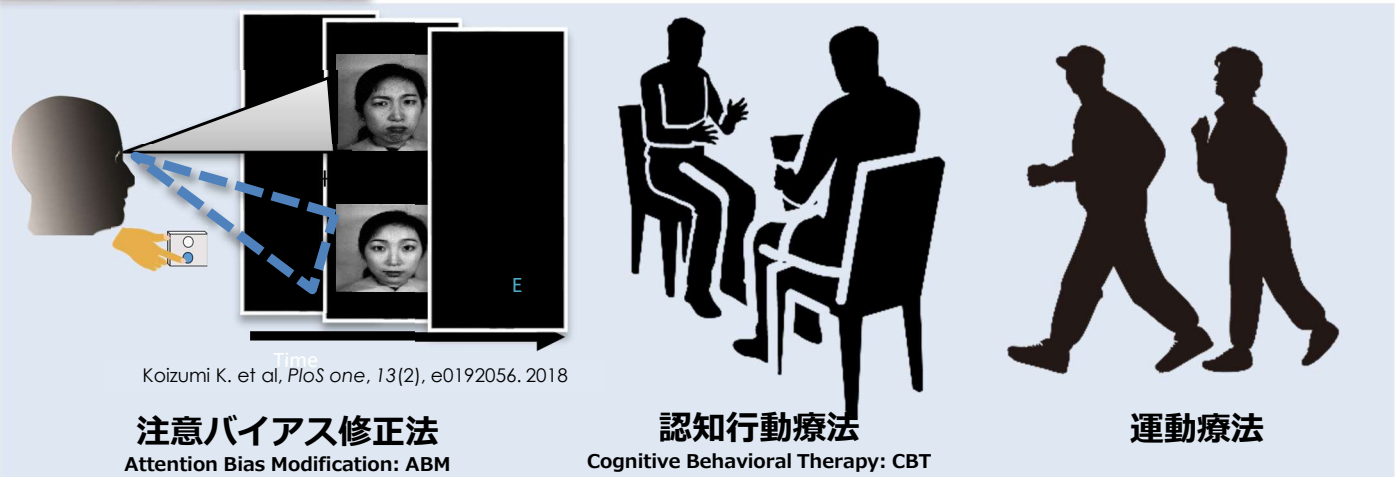


研究概要

がん患者は診断後、長期に渡り高いストレス状況下にさらされます。そのため、不安気分、抑うつ症状を呈しやすく、陰性情動の影響で行動が低減し、身体活動量が低下することが指摘されています。がん患者が前向きな生活を営むために心身の状態を高める方略は、生活支援を行うリハビリテーションにとって重要な課題です。

がん患者の前向きな生活を支援するために、心理-身体活動に配慮したリハビリテーション方略の開発を行っています。

研究紹介



1.がん患者の陰性情動惹起の機序に関する研究

嫌悪な事象へ注意が偏向する現象「注意バイアス」を調査し、陰性情動が惹起される機序について検証しています。

2.がん患者の陰性情動に起因した活動量減少を防ぐためのリハビリテーション方略の検証

心理-身体連関の側面から、心理-行動に配慮した集学的な介入が、運動効果を高めるか検証しています。

講座テーマ紹介

- がん患者の心理的効果を高める方法と実践についての講座
- がんサバイバーの身体活動量を高める、効果的な方法についての講座

アピールポイントなど

がん患者が有する多様な病態背景に対し、注意・認知・行動の視点から心理-身体活動を階層的に捉えます。多様な症状へ集学的な介入を実践することで、心理-身体活動に起因する課題を収束したいと考えています。